

名 称	令和5年度 第2回 目黒区障害者自立支援協議会 本会議
日 時	令和5年 11月6日(月)午後6時～午後8時
会 場	総合庁舎本館4階 政策会議室
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1)目黒区障害者自立支援協議会の体制等見直しについて</p> <p>(2)目黒区障害者自立支援協議会イベントについて</p> <p>3 報告事項</p> <p>4 その他</p> <p>【今後の日程】 第2回運営会議 令和6年2月16日(金)午後6時～午後8時 目黒区総合庁舎本館4階 政策会議室</p> <p>第3回本会議 令和6年3月1日(金)午後6時～午後8時 目黒区総合庁舎本館2階 大会議室</p> <p>5 閉会</p>
出席者	<p>委員:岩崎委員(会長)、北本委員(副会長)、駒井委員、岸井委員、渥美委員、島添委員、田島委員、村松委員、長谷委員、三木委員、内田委員、野村委員、白鳥委員、松原委員、池田委員、江見委員、徳永委員、阿部委員、斎藤委員(保健予防課長)、田中委員(障害施策推進課長)、岩谷委員(障害者支援課長)、山内委員(教育支援課長)</p> <p>その他区職員:田邊(健康福祉計画課長)、浅野(身体障害者相談係長)、石田(知的障害者相談係長)、田所(精神・難病係長)、長谷川(発達支援係長)</p> <p>事務局:小野(計画推進係長)、渡邊(計画推進係)、横川・森永・岡村(基幹相談支援センター)</p>
欠席者	八崎委員、重盛委員、岩谷委員(障害者支援課長)、大塚委員(子育て支援課長)
配布資料	<p>資料1 : 協議会見直しのポイントと各部会からの意見</p> <p>資料2 : 令和5年度目黒区障害者自立支援協議会イベントについて</p> <p>資料3 : 各専門部会からの報告事項</p> <p>資料4 : 目黒区保健医療福祉計画、介護保険事業計画及び障害者計画改定の基本的な方向について(答申)</p> <p>参考資料1 : 目黒区障害者自立支援協議会の体制等の見直しに向けた検討について</p> <p>参考資料2 : 自立支援協議会の運営等の見直し関係資料(国資料)</p> <p>参考資料3 : 障害児通所支援に関する検討会報告書 概要(国資料)</p>
会議内容	<p>1 開会</p> <p>会長より開会あいさつ。</p> <p>事務局より配布資料確認。</p> <p>会長</p> <p>本日、傍聴申請がある。協議会の公開について異議はあるか。異議等ないため傍聴を許可する。</p> <p>傍聴者入室</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 目黒区障害者自立支援協議会の体制等見直しについて</p> <p>事務局からより資料1、参考資料1に沿って説明を行った。</p>

会長

これらについて何か意見はあるか。それぞれの部会で協議したことを教えていただきたい。

相談支援部会

相談支援部会では体制の見直しについて部会長、障害施策推進課から説明を行いグループに分かれて意見を聴取した。その際、課題を抽出してもそれが実際に反映されるのかという意見が挙がった。個人的な意見だが、連絡会と部会が分かれる必要があるのか。連携するのであれば部会の中に連絡会を置いてもいいのではと考える。個別の事例から課題抽出するイメージが湧きづらいため、基幹に協力を依頼し他区の情報を収集している。その中で大田区の形(テーマが決まっていてそれに当てはまる事例を挙げて課題を抽出する)が一番イメージしやすいため、今後これを部会員に提示の上でどのような方法がいいか意見を募る。

高齢化・グループホーム対策部会

高齢化・グループホーム対策部会では事務局から体制の見直しについて説明を受け、部会内で協議した。次回12月の定例会に意見を持ち寄り、今後どうしていくか話を進めたい。コロナ後で以前のような活動が十分にできず、運営の仕方や体制面に課題があるが、そこを含め検討したい。今回の新体制について部会の意見がまとまっていないが、個人的には部会の意見というよりも事務局が提示したものを進めたいと考えている。

一般就労部会

一般就労部会では、部会であっても連絡会であっても活動そのものにあまり影響がないというのが大半の意見である。これまで部会から協議会に対して課題を挙げることはなく、部会員は私の報告から協議会本会の動きを情報として得るだけで、実感的にあまり身近な存在ではない。今は、事例検討や施設見学会など独自の活動がスムーズにできている。今回の提案に対して部会員全員に話をして意見を求めたが、特に意見は出ていない。一般就労部会の事務局として区からの報告を受け議論したが、現在の延長でやっていけるという認識である。課題を本会に挙げる場がないわけではないため、必要時には挙げていくということによいと思っている。個人的な意見になるが、協議会が発足した頃は、現在の相談支援部会や子ども部会が挙げているような課題を検討したいという思いが強かったと思う。そこに向かう変革であれば、ぜひ進めていくべきである。ただ、個別課題を政策まで反映させるという点で、協議会の責任がとて重くなると感じている。

会長

連絡会という形で部会活動が継続されるという受け止めだったということか。

一般就労部会

どちらでもよい。あまり形にこだわっていない。

会長

これまで通り情報共有などしていければよいということか。

一般就労部会

その通り。

施設就労部会

今月中旬に今年度2回目の部会を開催予定である。部会員と話す中で、部会でも連絡会でもどのような形でも実質的に取り組む内容は変わらないと感じている。事業者同士が集まり情報共有する場はあったほうがよいという意見でまとまると思う。

子ども部会

区の事務局が運営に関わる点を前向きに受け止めている。形にしていくために今後時間をかけ一緒に話し合っていきたい。1月の定例会で自立支援協議会体制見直しのたたき台についてもう少し具体的な話し合いの場を持つ予定。子ども部会独自の活動がスムーズにできている中で、身近ではない運営会議に関わっていくことについて、若手や中堅は議論に入っていくことに不安を感じている。以前、自立支援協議会の中で事例検討を設定する方向性となった時期もあったが、形にする事が難しかった。地域課題を検討することは重要なので、その形ができると良いが時間はかかるのではないかとと思われる。

意思疎通支援部会

意思疎通支援部会は、在宅の失語症者、聴覚障害者、視覚障害者、身体障害者、高次脳機能障害者が集まった団体である。コロナ禍で開催を控えていたが9月25日に意思疎通支援部会の継続について検討した。その中で、横のつながりがほしい、コロナ禍で孤立した、少しでもつながりのある場所が欲しいという意見が挙がったため、部会としての活動を続けていきたい。

防災部会

2年かけて体制見直しをしていくたたき台ということで、現時点では何が有効かはわからないため明確な回答は難しい。意見としては、部会は存続したい。防災部会は警察や消防など様々な機関と関わっていく必要性を感じている。防災は各部会に関係する課題であるため、当面の間は目の前のできることを継続し、国の定めた流れに沿って協議会を組み立てていくことで目黒区に有効な形にすることができたらよいのではないかと。個人的な意見だが、事例検討の場に事例を出すことは結果として評価になりかねない。事例を出すのであれば、協議会の場において相談支援部会や子ども部会での課題を一緒に考えていくことができるかが課題となる。また、相談支援専門員自体が少ないという課題や、基幹相談支援センターが担う地域のネットワークづくりなど様々な課題がある。そういった課題の解決が進んでいく中で防災部会が必要かどうかは判断していただいてもよいと考えている。

会長

この他、委員からご意見等あるか。

副会長

資料1のたたき台について。一つは、相談支援部会と子ども部会以外に臨時で専門部会を課題に応じて組織するとあるが、これは決まった検討テーマに対し専門部会をつくるということだと捉えられる。そこで、例えば「来期は人材育成確保が大切だ」とテーマが決まれば、臨時で人材部会のような新たな部会をつくるというイメージでよろしいか。新たな横断的なテーマについて検討する部会を組織する場合、人員をどう集めるか。各部会から一人ずつ選出するのかなどイメージを教えてください。

もう一つは、個別事例を出して施策に展開する点について、個別の事例からすぐに施策へ展開するのは難しいと考える。個別事例を出した際に運営会議で「これは地域の課題だ」と皆が認識できるかが重要である。運営会議で共通認識することができたら、個別課題が地域課題になる。その地域課題を本会議に挙げ、政策的な展開が必要であり、必要な政策は何かと考える。それを地域福祉審議会など提案して政策化していく。こういうプロセスだと思うが、その認識でよろしいか。

事務局

1点目について、専門部会として残り検討する必要のある課題があれば、まずはその部会で検討していきたいと考えている。それ以外に自立支援協議会として優先すべき別の課題があれば新たな専門部会を組織し、それ以外については連絡会として存続する形で今後話し合いをしていきたい。「人材」のような横断的なテーマを検討する専門部会を組織する場合は、相談支援部会、子ども部会、各連絡会の

中からメンバーを選出したいと考えているため、専門部会として存続しない場合でも連絡会として活動を続けていただきたい。部会や連絡会に所属していない方にも必要があれば区から個別に依頼するなどにより、横断的な関係者に集まってもらうというイメージである。

提起された課題がどう施策に結びつくのかという点について、地域福祉審議会のような会議のなかで検討するような大きな地域課題がある一方で、規模の小さい課題については、例えば、来年の予算化に向けて障害施策推進課や障害者支援課と一緒に検討していくなどの方法がある。一律に全てを審議会にかけるのではなく、解決には複数の方法があると考えている。

会長

質問ではなく意見でも結構だが、他にはいかがか。

委員

事業所の立場と、相談支援部会の副部会長との両方の立場から発言したい。まず副部会長の立場として、部会と連絡会の違いについてどう考えているのかを知りたい。もう一つは事業所代表の立場として、資料1の10ページ目の「事業所の協力をどのように得るか」についてだが、各事業所の参加は必要だが、自立支援協議会参加に対し、報酬の支出を検討してもらおうと参加しやすくなると期待している。また、開催時間について、日中の時間帯がよい場合もある。

事務局

部会と連絡会の違いについて、部会は特定の課題の検討を任期中に行うものであり、個別の課題を抽出して協議会に挙げるという明確な役割がある。一方で、情報共有や各事業所の課題抽出等を柔軟に行うものが連絡会であるという整理をしている。協議会の運営の流れの中で、本会議に議論を挙げるという明確な役割の有無が専門部会と連絡会で違う。

委員

運営会議も部会も、現在の体制を崩して構成し直すということでもいいのか。その場合、メンバーの整理をしておいた方がいいのではないか。

事務局

どういうメンバーとするのか、どういう立場で集まってもらうかを整理しようと考えている。課題に偏ったメンバーだけでなく、広く各分野の方々に集まっていただけるよう検討していきたい。

会長

部会の活動については、イメージしづらい部分があるのではないか。体制の見直しは2年かけての検討なので、急いで結論を出す状況ではないと感じている。

部会は、事務局から提案されたテーマについて検討する機能を持ち、個別事例を協議会に提起するという責任が生じる。その上げた課題がどのように政策化されていくのか分かりづらい部分がある。審議会に意見を具申する際に、これまでは個別の事例に基づくものではなく、部会からの意見を提起することが多かったが、今後は国の考えに沿い、目黒区の特性に合わせた協議会の体制を作り直さなければならない。

(2) 目黒区障害者自立支援協議会イベントについて

事務局から資料2に沿って説明を行った。

イベント委員会代表者からイベントについての補足説明を行った。

イベント委員代表者

昨年はブース内に相談コーナーを作ったが、参加者のほとんどが各事業所の関係者であり、初めて

参加する区民に広く活動を周知することが厳しいと感じた。今年度は相談コーナーを設置せず、パネル展示のみとする。昨年度の反省から展示パネルにルビをふることにした。また、自立支援協議会参加事業所のパンフレットを設置・配布するほか、販売を実施している区内障害者福祉施設の職員にも自立支援協議会の認知度を高めていきたい。イベント当日のスタッフは12名程度とし実施する予定。来年度以降は、外部のイベントに参加するなどにより、自立支援協議会の活動を周知していくことも検討したい。

3 報告事項

(1) 専門部会からの報告事項

相談支援部会

資料3に補足。第4回の相談支援部会定例会で行った目黒区との交流会は、お互いの顔が見える良い交流会だったが、それだけで終わらせないために「Q&A」という形で情報を蓄積する試みに取り組んでいる。

高齢化・グループホーム対策部会

資料3に補足。第2回定例会は久しぶりの開催になり、各事業所の状況や課題を共有した。自立支援協議会の新体制の見直しについては、今後開催予定の2回の定例会において話し合う予定である。

一般就労部会

資料3に沿って説明を行った。11月1日の事例検討の前に、自立支援協議会の新体制の見直しについて皆で意見交換をした。最近の事例検討は、困難だが最終的に成功したケースを出してもらうことが多い。その事業所の取組を皆で共有して学んでいる。11月の定例会から、民間の就労移行支援事業所が新しく参加している。

施設就労部会

資料3に沿って説明を行った。11月16日に第2回定例会部会を開催するので、そこで各事業所の現状報告と、自立支援協議会の新体制の見直しの方向性について部会員の意見を聞く予定である。

こども部会

資料3に沿って説明を行った。9月の定例会で行った事例検討について、提供者からのフィードバックとしてケースの現状や今後の支援について、11月の定例会で話をしてもらう予定である。また、11月の定例会は学習会になっており、医療的ケア児の社会資源・家族支援について話を聞くことになっている。

意思疎通支援部会

資料3に沿って説明を行った。当事者団体に属する若者が少なくなっているが、本人支援だけではなく家族支援をする場でもありたいので、活動を続けていきたい。

防災部会

資料3に沿って説明を行った。

(2) 区からの報告

障害施策推進課長から資料4について説明を行った。

4 その他

委員

11月11日10時から14時、スマイルプラザ中央町で「スマプラフェスタ・わっしょい&防災訓練」が開催されるので盛り上げていただきたい。

委員

目黒区障害者団体懇話会として、2月に防災に関する講演会を計画しているので、幅広く皆に参加してもらいたい。

委員

今回の自立支援協議会の体制見直しのポイントは、行政がどこまで責任を持つのか。具体的には実施要綱を作って部会を設置し、部会と連絡会とを切り分けて位置づけをわかりやすくすることで、謝礼金の問題が整理できるのではないか。

また、部会で議論したことが施策に繋がらないのではという意見があるが、協議すること自体が大切で、協議会の視点があると所管が現場のことを掴みやすい。

防災について、特別支援学校では宿泊の防災訓練を行っている。障害者の避難所生活の大変さを知るため、避難所設置訓練、防災備蓄品チェック、保護者との事前打ち合わせ等、具体的に宿泊準備をするプロセスが大切だと考えている。

委員

民生委員の活動はコロナの影響で各施設との連携が途絶えている状況である。加えて昨年は一斉改選が行われ、西部第2地区では27名中10数名が新人となった。新人の活動の在り方が課題となっている。また、民生委員のなり手がいないということも大きな課題だ。

委員

コロナの影響でボランティア活動も途絶えていたが、今年になってから地域の祭りやイベントが戻ってきている。11月25日に第22回しいの実祭を開催するので、ぜひ参加いただきたい。

委員

8月にこぶしえんで納涼祭を開催し、とても盛況だった。本日の議題にイベントの件も出たが、誰を対象に宣伝するかに焦点を当て、地域住民の啓発に祭を利用してほしい。

事務局

2月16日(金)に会長、副会長、各専門部会長をメンバーとした運営会議を実施予定である。本日の議論内容は事務局として整理検討の上運営会議にも挙げ、第3回本会議に諮る。第3回本会議は3月1日(金)18時から20時まで、場所は2階の大会議室で行う予定となっている。

副会長

個別課題から地域課題、施策への展開をどうにか実現したい。試行的でもいいので、本会議で協議したい事項を各部会から挙げてほしい。

5 閉会